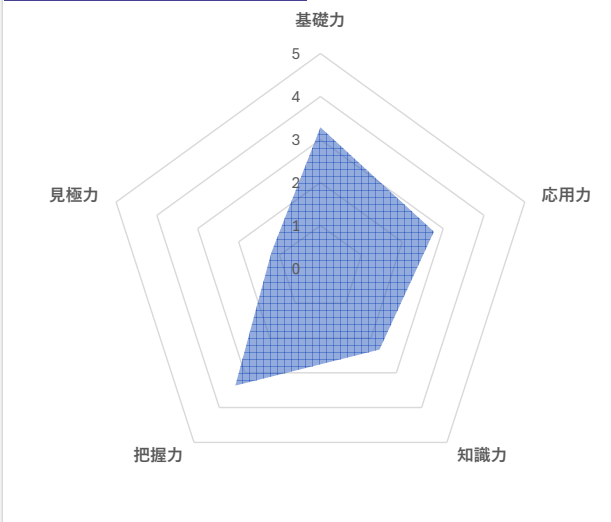


総合分析

試験区分 N方式

制限時間 60分 (物理単科60分) 大問数 全 5 問

合格に要する能力 (5段階)



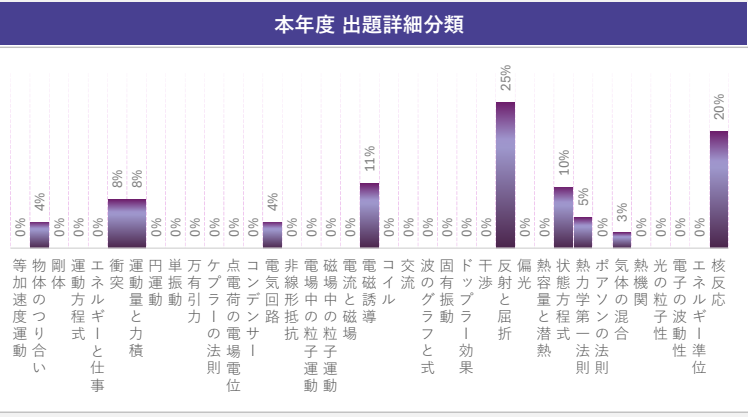
合格に要する能力 (5段階)	
基礎力	3.1 原理についての理解
応用力	2.6 演習経験による慣れ
知識力	2.1 用語を正確に覚えているか
把握力	3.2 臨機応変に状況を把握する力
見極力	1.0 解きやすい問題を選択する力

特記事項 特になし

出題分野	
力学	21%
電磁気学	16%
波動	25%
熱力学	18%
原子物理	20%

本年度 解答形式
選択肢 100%

本年度出題テーマ一覧	
第1問	壁に斜めに衝突する小球のはねかえり
第2問	2室に分けられた封入気体の状態変化
第3問	ニュートンリング
第4問	導体棒の電磁誘導
第5問	核分裂



特殊問題の有無	近似計算なし	グラフなし
正誤問題なし	理由記述なし	数値計算あり

総合評価

難度	2.5 最難を5とする問題自体の難度	やや易しい	一次合格に必要な正答率 (予想)	75%
分量	57分 完答に要する時間 (制限時間は60分)	標準	高い正答率を要する	

入試の特徴と対策

- ▶ 設問ごとにテーマが一貫しており、目標に向かう流れがある。速やかなテーマの把握が鍵となる。
- ▶ 入試問題としてありふれた題材が多い。単純に演習量で十分に対策できる。
- ▶ 概ね法則の運用に関する応用的な出題である。物理計算への慣れが必要となる。

入試から見る 大学が求める学生像

典型的な問題からひねりのない設問が多いため、標準的な問題集を用いた演習経験だけで極めて高い得点をとることが可能であり、典型的な問題を漏れなく要領よく演習したかどうか問われている。卓越した能力よりも、粘り強く努力できる能力を持つ学生を求めていると考えられる。